

平成 24 年度 第 7 回 びわコミ会議運営委員会 議事録

日時	2012 年 12 月 14 日 (金) 18:15～19:30	
場所	滋賀ビル 9 階 かすが特別室	
出席者 (50 音順、 敬称略)	井手 慎司	滋賀県立大学環境科学部
	石河 康久	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	岡本 高弘	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
	川端 隆弘	公益財団法人 淡海環境保全財団
	木村 道徳	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
	北田 俊夫	NPO 法人 びわこ豊穰の郷
	小林 泉	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	佐々木和之	水色舎
	佐藤 祐一	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
	正阿弥崇子	滋賀県琵琶湖博物館 環境学習センター
	関 慎介	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	田仲 輝子	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	土井 康寛	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	中村 大輔	滋賀県 びわ湖フローティングスクール
	根木山恒平	NPO 法人 碧いびわ湖
	堀井 誠明	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	松沢 松治	びわ湖の水と地域の環境を守る会
三和 伸彦	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課	
村上 悟	NPO 法人 碧いびわ湖	
望月 孝幸	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課	

※今回欠席（委員のみ、敬称略）：伊吹美賀子（琵琶湖流域ネットワーク委員会）、中野隆弘（びわ湖エコアイデア倶楽部）、野田晃弘（NPO 法人蒲生野考現倶楽部）、堀彰男（滋賀県魚のゆりかご水田プロジェクト推進協議会）、山口美知子（滋賀地方自治研究センター）、渡辺維子（元：公益社団法人滋賀県環境保全協会）

10 月 9 日に開催した第 6 回運営委員会に引き続き、従来の委員に加えて関心を持つ参加者が集い、びわコミ会議全般に関する意見交換を行った。提示された意見を以下にまとめる（内容ごとの整理）。

1. 運営委員会の今後の検討の進め方について

前回の運営委員会以降、委員有志で今後の琵琶湖保全やマザーレイクフォーラム、びわコミ会議等の方向性について話し合った結果について佐藤より報告を行った。それを受けて、運営委員会の今後の検討の進め方について井手委員より以下の提案があった。

- ・ びわコミ会議運営委員会は、まずは「年 1 回のびわコミ会議」の運営を行う主体として立ち上げられた。
- ・ しかしそれだけでは、多様な主体間のコミュニケーションや課題の共有など、目的としていた事柄を達成するのが難しいということがこれまでのびわコミ会議でも分かってきた。運営委員会では、今後「年 1 回のびわコミ会議」だけでなく、より広い内容について検討していく必要があるのではないか。
- ・ そこで、まずは「これからの琵琶湖のために運営委員会に何ができるのか？」を考え、これから取り組む課題を決めていってはどうか。またその後、課題に応じた部会を設置し、世話人を置くなどしてより詳細に検討を進めていってはどうか。

以上の提案に対し、以下のような意見が提示された。

- ・ 具体的な「現場」をもって検討する必要があるのではないか（例：県立大上田先生らが進めている「びわ創」）。今まで取り組まれている活動に学ぶという姿勢が必要である。
- ・ 部会の分け方として、①ML21 計画の目標に応じて分ける、②取り組む内容に応じて分ける、③メンバーの所属に応じて分ける、などが考えられる。GPN でも部会による検討を進めているが、ML21 計画のような全体としての目標像があるわけではない。びわコミだからこその分け方を検討してはどうか。
- ・ より具体の進め方としては、まずは①びわコミ会議の運営に関する事、②それ以外の内容に関する事、の 2 つに分けてはどうかと考えている。②については、議論の進捗に応じてより細かく部会を分けていってもよい。
- ・ 部会に分かれた場合、部会間の議論の整合性をとる必要がある。開催方法として、部会の日時を合わせ、最後に全体で共有するような進め方をしてはどうか。
- ・ 「それ以外の内容」として、例えば以下の 2 つが挙げられる。
 - 暮らしと琵琶湖のつながりについて検討する
 - 特定のテーマについて、新しい人にどう関わってもらうかを検討する（例：守山ほたるパークアンドウォークと NPO 法人碧いびわこの関わり）
- ・ 部会を持つことの必要性がまだ理解できない。運営委員会としてどのような内容を検討すべきか共有してから、部会という形態がよいのかどうか判断してはどうか。

2. マザーレイクフォーラムとの連携依頼、学術フォーラムの開催について

(1) マザーレイクフォーラムとの連携依頼

望月氏より、マザーレイクフォーラムと他のフォーラム等との連携について、以下の通り提案があった。

- ・ 「マザーレイクフォーラム」という名前を浸透させることがまずは重要だと考えている。簡単などころからの連携として、各地で実施される関連するフォーラムに対して、例えばチラシに「本事業はマザーレイク 21 計画に基づくマザーレイクフォーラムとの連携事業です」といった文言を追加していただくよう依頼を進めていただきたい。
- ・ 依頼分のコピーを 3 部配布した。適宜配布や原本として活用いただきたい。
- ・ 参画いただいたフォーラムには、ホームページなどを通じた広報などが可能となるため、双方にメリットがある。
- ・ 淡海川づくりフォーラム（1/14 開催）で、マザーレイクフォーラム賞が新設されることになった。当日は松沢委員長が出席、3 団体に表彰していただく予定。副賞を 3 つ準備する必要があるため、どこか 3 団体から提供してもらいたい。

(2) 学術フォーラムの開催

堀井氏より、第 2 期計画における学術フォーラムの検討状況について、以下の通り説明があった。

- ・ 学術フォーラムは、現在の琵琶湖総合保全学術委員会を改組するもので、計画の PDCA サイクルのうち特に C の部分について、学術的見地からの整理と解析を行う場である。
- ・ 第 1 回目のフォーラムを来年 2 月 8 日（金）に実施する予定である。10 名程度で審議していきたい。

3. 今後の予定

- ・ 次回運営委員会は、「これからの琵琶湖のために運営委員会に何ができるのか？」について、全体で議論する場とする（部会形式はとらない）。
- ・ 多くのメンバーの意見をより詳細に吸い上げるため、数名ずつに分かれたワークショップ形式で

の開催を検討する。

【当日のホワイトボードのメモ】

運営委員会

↳ まずは「年1回のびわ湖の運営」
⇒ しかし「これからのびわ湖の為に何が出来るか？」を考えてやること決めては？

① 運営委員会として動く為の部会設置
メンバーfixではないが世話人

→ まずこれを考えてから、部会を検討

○ 具体的な「場」をもって検討する必要。
例：びわ湖祭
→ 今までやっている活動に学ぶ

○ 部会の分け方
・ 部会ごとに目標、← ML21目標に応じて
・ やることに応じて分ける
・ メンバーで分ける... etc
例：GPN → 全体としての目標はない

○ 井手案：①びわ湖ミ、②それ以外
→ キョンに応じてスピンオフ

○ 場のつくり方 ↔ 年1回のびわ湖ミ (普段伝えり場)

○ 部会の日時を合わせて、最後に共有しては。(ギョンの整合性をとる必要)

○ くらしとびわ湖の「おがび」(あらいびわ湖のmission)

○ (特定のT-2にいい)新しい人にどう関わってもらうか (例：宇山(ア)に3P&Wとあらいびわ湖のあかり)

○ 部会 → やりたいことが決まってるからでは？

— 以上 —